

# 特別な支援を要する子どもの支援と自己決定

新潟大学教育学部 長澤正樹

## 0. 特別な支援を要する子ども

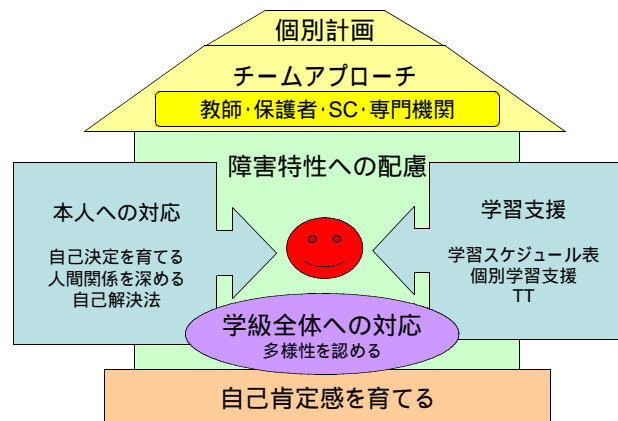
- ・ 学習に困難を示すグループ、対人関係に困難を示すグループ、行動上の問題を抱えるグループ
- ・ 診断の有無にかかわらず、これら3種類の領域に支援を要するグループが存在する
- ・ 不登校、非行や問題行動、中途退学、虐待、経済的な問題など

## 1. 特別支援教育の対応モデル

### (1) 自己肯定感を高めるかかわり

- ・ 親しく声をかけるなど子どものやる気を高める
- ・ できることからはじめ成功体験を与える
- ・ 子どものがんばりを認め、自分はこの自信を育てる
- ・ ボランティア体験などにより、自分でも誰かの役に立つ体験を与える
- ・ 上手なほめことば：何がよいのか、程度を伝える、  
子どもの行為 + ほめことば + (必要最小限の助言)

### 支援の基本的な考え方



### (2) 人間関係を深めるかかわり

SST：つきあい方を具体的に教える、年齢相応のつきあい（趣味、サークル）

### (3) 違いを認める

- ・ 共生教育：違っていいことを認める教育
- ・ 個性の尊重：できない現実を認め、できることをのばす対応
- ・ 説明責任：誰でも特別な支援が受けられることを事前に説明する

### (4) 自己決定（後述）

### (5) 学習支援

- ・ 学力の実態把握：詳細なアセスメント
- ・ 教科別の対応：国語算数は個別指導等で、未学習に対応すること
- ・ 基本的な考え方：できることからはじめ、できることをのばす
- ・ 個人内評価：人と比べない、少しの進歩を評価する
- ・ 学習のユニバーサルデザイン：どの子にもわかりやすい授業実践の方法

## (6) チームアプローチ

- ・ 支援チームを組織する、保護者をメンバーに入れる、協働作業の精神で取り組む、話し合った結果を文書（個別計画：図）に残す

## 2. 自己決定支援

### (1) 定義

- ・ 自分自身の生活や生き方について、自己の意思や願いに基づき、主体的に決定すること
- ・ きめるために必要な方法を知り、目標達成と解決を自ら行えること
- ・ 選択した結果について、自ら責任を担うこと

### (2) 自己決定が必要な理由

集団主義から個人主義の社会への転換、結婚や職業を自分できめる時代

### (3) 自己決定の概念図（図）

### (4) 自己選択

選択の機会を与え、選択肢と結果を示す

### (5) 自己解決

- ・ 自分で問題解決ができるよう、一緒に考え、支援する

- ・ 自己管理、時間管理、問題行動

#### 自己管理

支度や片づけなど、段階的に支援し、ひとり

でできるよう援助を減らす

#### 時間管理

ア) 活動の順番をきめ、時間にとらわれずに行動させ、見通しを持たせる

イ) 絵や写真によるスケジュール管理

ウ) 時計のまわりに活動を入れ、時間を意識させる

エ) スケジュール表に時計を入れ、活動を自己選択、自己評価を促す

#### 問題行動の自己解決法

- ・ 感情的にならず冷静に子どもの話を聞く
- ・ 何が悪かったのか、自分からいわせる
- ・ どうすればよいのか（良かったのか）、一緒に考える（選択肢を与え、きめるよう促す）
- ・ 約束し、少しでもできたことを評価する（プラスのフィードバック）

### (6) 自己主張

順番：肯定的な表現 肯定 + 否定表現 No と言える

ロールプレイなどを通して具体的に、主張できたことを評価する

### (7) 自己理解

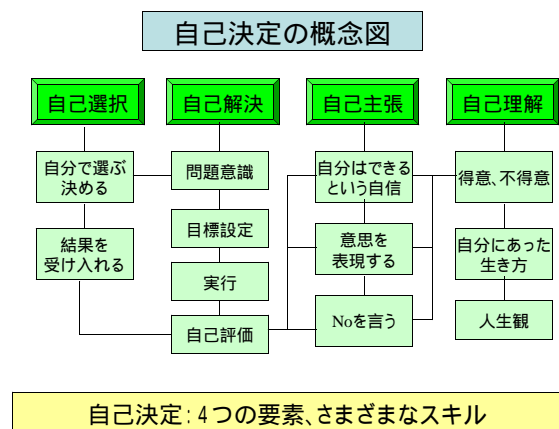
現状：内面状態や人間関係への無関心さ、現実とかけ離れた自己像・世界観

#### 自己理解の過程

うまくいった経験 自己肯定感 自己の特性の理解、できることとできないことを知る

自己理解 進路を考えるもとに

進路指導と自己決定



前向きな自己理解（特性、障害、学力など）から自分にあった進路を選択する、  
さまざまなスキル・免許・資格、社会経験の大切さ

(8)本人参加

意義：ソーシャルワークの手法

- ・個別計画の作成に本人を参加させる
- ・自分できめられるよう支援する
- ・自己理解から自分にあった支援をきめることで、責任意識も育つ

手続き

願う姿を聴き、具体目標を考え、必要な支援（必要でない支援）を選択する（図）

長期目標	自分はどうなりたいのか(自立生活を送る)	
短期目標	して欲しいこと・して欲しくないこと	結果・がんばったこと
今できることは何か (週2回洗濯する)	教師・親に 手伝って欲しいこと、 して欲しくないこと (洗剤の分量を見てほしい。 ほかは口出しをしないで ほしい)	できるようになったこと がんばったこと (洗濯機の使い方を マスターした)
		↓ 次の目標 洗濯物を干す

個別移行計画

入学時の実態	3年間の取組む学習内容			卒業時の姿
1. 生活状況 2. 学習状況 3. 社会生活	1. 生活状況 2. 学習状況 3. 社会生活	1. 生活状況 2. 学習状況 3. 社会生活	1. 生活状況 2. 学習状況 3. 社会生活	1. 生活状況 2. 学習状況 3. 社会生活
	自己評価			

卒業後の目標と達成のための学習を計画し、継続的に評価する。高校生活に見通しを持たせる

個別の移行計画（図）

3. 行動上の支援（ADHD への対応）

(1)自己管理の仕方を教える

話し合って約束をきめる、できたかどうか記録する、できたことを評価する

\*約束を守るといいことがあることを教える方法

(2)して良いことを教える

問題行動を直すことより、正しい自己主張の仕方を教えること

(3)ほめる、無視する、罰する

望ましい行動・悪くない状態をほめる

して欲しくないことにはルールを繰り返す

許しがたい行為には教育的な罰を

少しの変化を認め段階に応じた冷静な対応を

(4)トークンシステム

約束をきめできたらポイントを与え、ごほうびと交換するシステム。我慢の勉強でもあり、計画的に実施すれば効果がある

(5)タイムアウト

ルール違反や警告をし、だめなら別室で指導する。クールダウンを図りできるだけ早期に復帰を。本人・保護者への説明責任を果たす

#### 4. アスペルガー障害、高機能自閉症への対応

(1) 見えるように教える：スケジュール表、絵に描いて教える、文章で教える、話の内容を図に書いて説明する

四コマ漫画で教える：選択肢と選択した予想される結果を示し自己選択を  
ソーシャルストーリー

事実に基づく説明文。なぜしてはいけないのか、どうすればいいのかを本人の立場に立ってまとめた文章

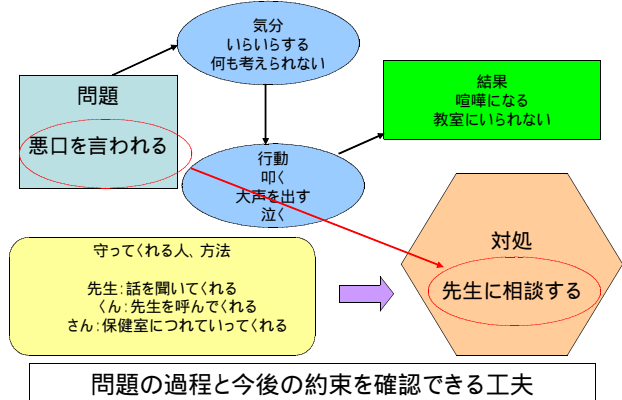
視覚化

(2) 具体的な会話：具体的な約束、わかりやすい説明、過激な表現に惑わされない（気持ちをわかってあげる）

(3) 他者理解の工夫

- ・自分の気持ちと他人との違いを書いて対比させ気づかせる
- ・空気の読み方を教える
- ・共通体験
- ・他者理解困難という特性の理解を

#### 解決方法を視覚化する（認知行動療法）



・心の状態と対応の仕方を学ぶ（図）

#### 心の状態と対応の仕方を学ぶ

	レベル1	レベル2	レベル3
心の状態	●	●	●
気持ち	余裕 まだまだが んばれる	少しイライラ 少ししかが んばれない	爆発寸前 もうダメ
適切な言い 方、対処の 仕方	「だいじょうぶ だよ」 課題を続ける	「少し休ませて ください」 先生に助けを 求める	…… 保健室に行く

自分の状態を知り、対処の仕方を学ぶ

\* まとめ：特別支援教育

- 自分を好きになる
- 人を好きになる
- 自分に自信を持ち相手も認める
- 自分で問題解決・自分を知る
- 勉強を好きになる
- 特性にあった学習支援
- チームワーク